2026年度　第2四半期(中間期)

決算説明資料

三菱ガス化学株式会社

2026年11月10日

証券コード
4182



本日の決算説明のポイント

1. 2026年度 上期実績

		前年同期比
売上高	4,368億円	＋751億円
営業利益	494億円	＋243億円
親会社株主に帰属する中間純利益	354億円	＋633億円

売上高	＋	● メタノール、ポリカーボネート(PC) 等での市況上昇及び原材料コスト増の価格転嫁 ● BT材料の販売数量増及び価格改定効果 ● 円安影響
営業利益	＋	● 上記に加え、メタノール、PC等での在庫受払差等による損益改善
中間純利益	＋	● 営業利益の増加 ● 前年同期に計上した減損損失の反動

※上期として営業利益、経常利益は過去最高値を更新

2. 2026年度 通期業績予想

		前回予想比
売上高	9,000億円	＋400億円
営業利益	810億円	＋100億円
親会社株主に帰属する当期純利益	650億円	＋100億円

売上高/営業利益	＋	● 原油価格やメタノール市況の高止まり ● PC等での価格転嫁による採算改善 ● 半導体向け薬液の販売数量増 ● BT材料の価格改定効果
配当方針		年間配当予定110円（中間55円、期末55円） ※前回予想から変更なし。2025年度比年間10円の増配を予定

中東情勢緊迫化による影響：

-メタノールのサウジアラビア拠点を除き、当社グループでの生産・販売への影響は軽微
-原燃料価格上昇により化学品を中心に製造コストは上昇も、速やかな価格転嫁で対応。下期においても原油・メタノール市況の高止まりを想定
-上期では顧客の要請に対するタイムリーな供給に取り組み、在庫受払差等の影響も加わり、損益が大きく改善

※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

まず本日の決算発表のポイントについてご説明いたします。

1点目の2026年度 上期実績につきましては、中東情勢影響によるメタノール、ポリカーボネート等での市況上昇及び価格転嫁、BT材料での販売数量増や価格改定効果、また、在庫受払差による損益改善も加わり、増収増益となりました。

また、中間純利益につきましては、前年同期に計上した減損損失の反動により大きく改善しております。

なお、上期実績として営業利益、経常利益は過去最高値を更新しました。

2点目の 2026年度 通期予想につきましては、下期においても原油価格等、市況の高止まりが想定され、上期で生じた増収増益が、通期においても一定程度確保できる見通しであることから、前回予想より上方修正しております。

また、中東情勢緊迫化への対応としましては、メタノール、ポリカーボネートなどを中心に原燃料コストの上昇に対して速やかに価格転嫁に取り組むとともに、顧客からの要請に対してタイムリーな供給に努めました。

1 | 2026年度 上期 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス 次期中計に向けて

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

はじめに

「2026年度 上期決算概要」

次に、「2026年度業績予想」、

続いて「セグメント別　業績概要」

という順でご説明した後、来年度から始まる「次期中計」の方向性についてもお話ししたいと思います。

1 | 2026年度 上期 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス 次期中計に向けて

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

まず、2026年度 上期業績についてご説明いたします。

2026年度 上期決算 業績サマリー

売上高：中東情勢緊迫化に伴うメタノール市況上昇、電子材料の好調な販売に加え、円安の影響等により増収
営業利益：上記に加え、原燃料価格の上昇等に応じて速やかに価格転嫁を実行したことや在庫受払差等の影響により増益
経常利益：営業利益と持分法利益の増加により増益（持分法利益：JSPの好業績やメタノール市況上昇により増益）
中間純利益：経常増益に加え、前年同期に計上した多額の減損損失の反動もあり、大幅に損益が改善、黒字化

単位：億円	2025年度 上期	2026年度 上期	増減 金額	増減 %	2026年度 上期 前回予想*
売上高	3,616	4,368	+751	+20.8	4,400
営業利益	251	494	+243	+96.7	410
持分法利益	29	66	+36	+123.9	34
経常利益	314	568	+253	+80.6	460
親会社株主に帰属する中間純利益	▲279	354	+633	-	310
					*2026年8月7日公表
一株当たり中間純利益（円/株）	▲143.48	181.81			158.98
為替レート（JPY/USD）	146	159			

三菱ガス化学株式会社
©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

5ページ、2026年度上期の業績サマリーを示しております。

売上高は、中東情勢緊迫化に伴うメタノール等での市況上昇、電子材料の好調な販売に加え、円安の影響等により+751億円増収の4,368億円となりました。

営業利益は、売上高の増加に加え、メタノール等での在庫受払差の影響により+243億円増益の494億円となりました。

経常利益は、営業利益および持分法利益の増加により、+253億円増益の568億円となりました。

中間純利益は、経常利益の増益に加え、前年同期に計上したオランダMXDA製造子会社での多額の減損損失の反動もあり、大幅に回復し、354億円の純利益計上となりました。

2026年度 上期 営業外損益・特別損益

単位:億円

	2025年度 上期	2026年度 上期	増 減
営業外損益	**63**	**73**	**+10**
持分法による投資損益	29	66	+36
金融収支	25	15	▲10
為替差損益	15	▲6	▲21
その他	▲7	▲0	+6
特別利益	**54**	**39**	**▲14**
投資有価証券売却益	10	23	+12
補助金収入	1	12	+10
貸倒引当金戻入額	-	2	+2
固定資産売却益	35	-	▲35
その他	6	-	▲6
特別損失	**▲510**	**▲55**	**+455**
建設工事中止に伴う損失	-	▲33	▲33
固定資産圧縮損	-	▲12	▲12
減損損失	▲502	▲3	+498
その他	▲8	▲5	+2
特別損益合計	**▲456**	**▲15**	**+440**

※ 本表の増減は対損益増減を示しております。

差異の内容

- **持分法損益**
  GEC　+30
  機能化学品　+6

差異の内容

- **建設工事中止に伴う損失　▲33**
  オランダMXDA製造子会社での契約解除等に伴う損失
- **減損損失　+498**
  オランダMXDA製造子会社での減損の剥落　等

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

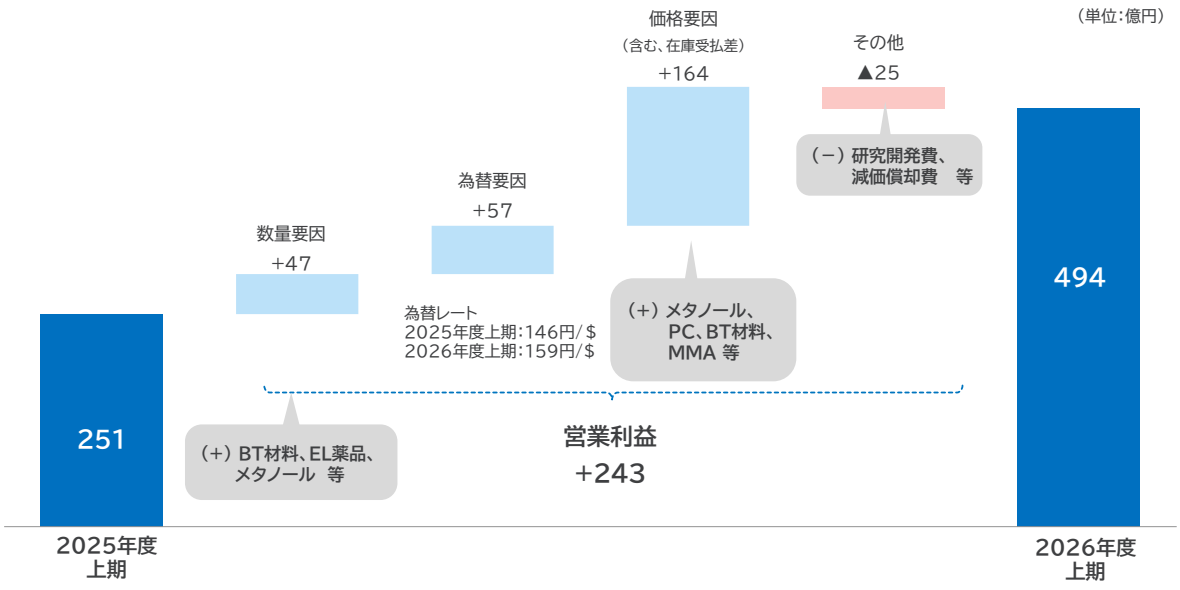
6ページに、営業外損益・特別損益を記載しております。

まず、営業外損益につきまして、持分法損益は、JSP等での損益改善から増益となりましたが、金融収支や為替差損益の悪化などもあり、若干の増益に留まりました。

続いて、特別利益は、前年度の固定資産売却益の剥落により14億円減益となりました。

特別損失は、オランダMXDA製造子会社での減損損失の剥落等により、合計で455億円増益となっております。なお、同社での契約解除等に伴う損失を今上期にて33億円の特別損失として計上しております。

2026年度 上期 営業利益 増減要因(前年度比)



©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

7ページは、営業利益の増減要因を前年度との比較で示しております。

数量要因は、BT材料、EL薬品、メタノールの販売数量の増加、価格要因は、メタノールやPCの販売価格の上昇、在庫受払差、BT材料の値上げ効果などが大きく影響しています。

その他要因には、研究開発費や減価償却費の増加などが含まれております。

1 | 2026年度 上期 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス 次期中計に向けて

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続きまして、2026年度 業績予想についてご説明いたします。

2026年度 通期 業績予想のポイント

- 対前回予想*1：売上高+400億円、営業利益+100億円、経常利益+170億円

  営業利益・持分法利益の主な増減要因

  （+）PC等の価格転嫁による採算改善、BT材料の価格改定効果
  （+）メタノール市況の上昇
  （+）半導体向け薬液の販売数量増加
  （−）円高
  （−）芳香族化学品（MXDA等）の販売数量減少及び原燃料価格上昇による採算悪化

- 期末配当予想：55円（前回予想*2を据え置き）

*1 2026年8月7日公表
*2 2026年5月13日公表

■為替前提（下期）：1ドル155円（前回予想から5円円高）、1ユーロ175円（前回予想から10円円高）
為替感応度（USD、概算）：1円の円高（円安）で、営業利益5億円/年、経常利益4億円/年の減益（増益）

■原油価格前提（下期）：105ドル/bbl.（前回予想から32ドル/bbl.上昇）
原油感応度（USD、概算）：中東情勢の緊迫化を受け精査中
（※2025年度業績予想における感応度は、$1/bbl.の上昇（下落）で、3億円/年の減益（増益）、メタノールへの影響は含まず）

三菱ガス化学株式会社
©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

9ページに、通期業績予想のポイントを示しております。

売上高、営業利益、経常利益につきまして、前回予想比で増収増益を予想しております。

為替前提を円高に見直したことや、芳香族化学品の販売数量減少などによる減益が見込まれる一方、下期もメタノールやPC価格の高止まりを想定、価格転嫁による採算改善、BT材料の価格改定効果などを織り込み、前回予想比で増益を見込んでおります。

なお、期末配当については、前回予想を据え置き、55円を予定しております。

2026年度 通期 業績予想

＜前回予想比＞

- 上期実績：PC等での着実な価格転嫁に加え、半導体向け薬液の販売数量増加、BT材料の価格改定効果の早期発現もあり営業利益は大幅増益。メタノール市況が上振れたため持分法利益も増加
- 下期予想：円高影響、原油価格やメタノール市況の高止まりや、電子材料等の堅調な販売により売上高及び各利益は前回予想を上回る見通し

	2026年度上期			2026年度下期			2026年度通期			下期(今回) - 上期実績 差異
単位：億円	前回予想*	実績	差異	前回予想	今回予想	差異	前回予想	今回予想	差異	
売上高	4,400	4,368	▲31	4,200	4,631	+431	8,600	9,000	+400	+262
営業利益	410	494	+84	300	315	+15	710	810	+100	▲179
持分法利益	34	66	+31	64	103	+39	98	169	+71	+37
経常利益	460	568	+108	330	391	+61	790	960	+170	▲177
親会社株主に帰属する当期純利益	310	354	+44	240	295	+55	550	650	+100	▲59

＊2026年8月7日公表

＜下期予想・上期実績比＞

- 電子材料や半導体向け薬液の販売は好調を継続するものの、定修等による固定費増加、在庫受払差等の剥落、円高影響等により下期は上期比で減益となる見通し

三菱ガス化学株式会社

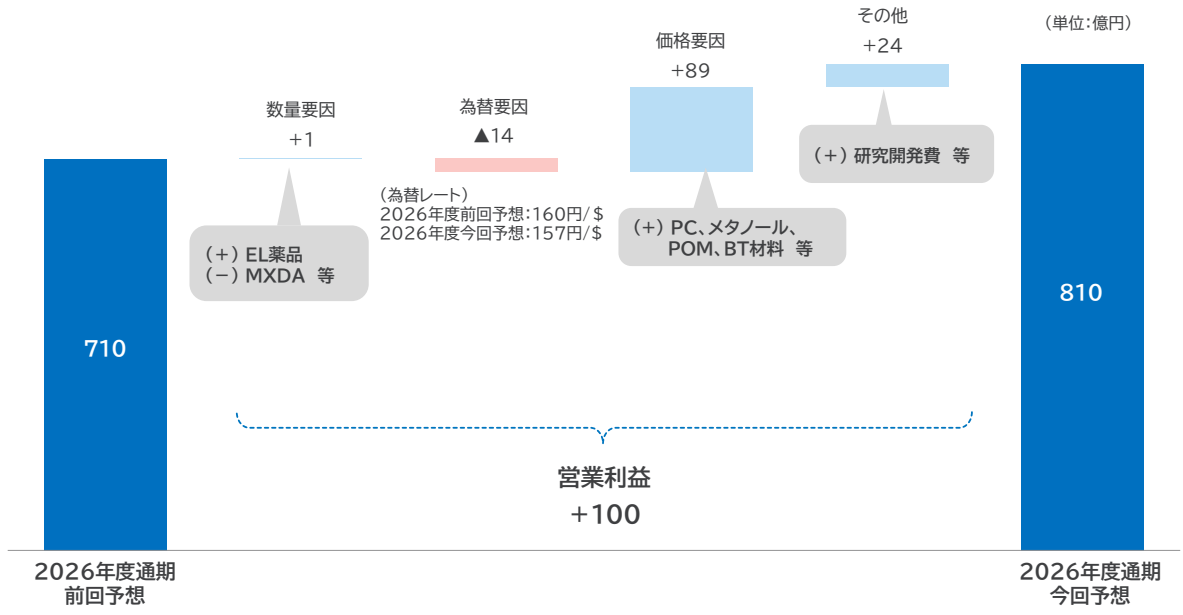
©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

10ページは、通期業績予想について前回予想との差異を示しております。

前回予想比で、通期売上高は400億円増収の9,000億円、営業利益は100億円増益の810億円、経常利益は170億円増益の960億円、当期純利益は100億円増益の650億円を見込んでおります。

上期実績・下期予想での差異につきましては、後ほどご説明致します。

2026年度 通期 営業利益 増減要因(前回予想比)



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

11ページは、前回予想比での、営業利益増減要因を、滝グラフで示しております。
後ほど、ご参照願います。

1 | 2026年度 上期 決算概要

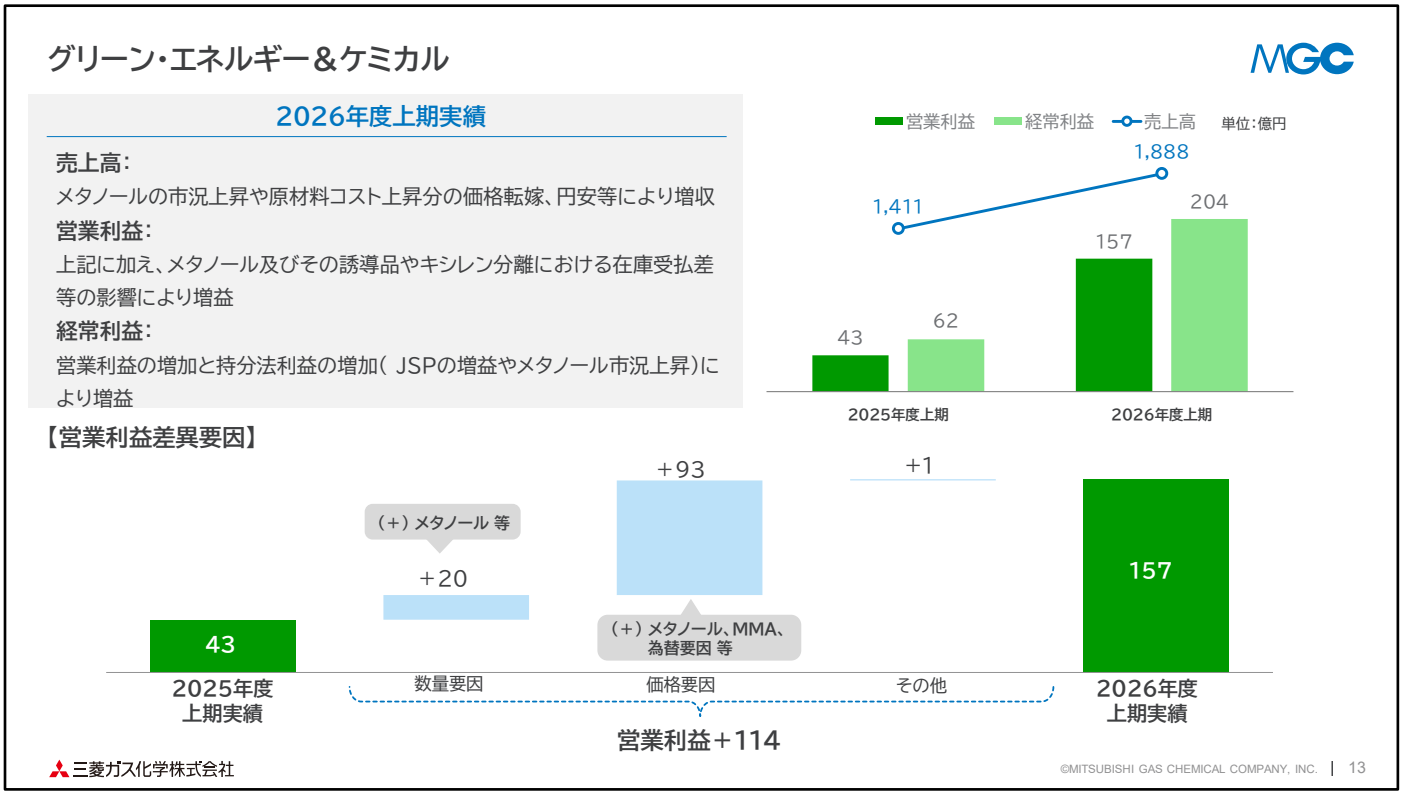
2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス 次期中計に向けて

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。



13ページでは、グリーン・エネルギー＆ケミカル事業についてご説明いたします。
以降GEC(ジーイーシー)と表現させていただきます。

上期実績について、右上のグラフの通り、売上高はメタノールの市況上昇や原材料コスト上昇分の価格転嫁、円安等により増収となりました。
営業利益は、売上高の増加に加え、メタノール及びその誘導品や、キシレン分離における在庫受払差等の影響により増益となりました。
また、経常利益につきましても、営業利益および持分法利益の増加により増益となっております。

下段には、前年同期比での営業利益差異要因を、滝グラフで示しております。
後ほど、ご参照願います。

グリーン・エネルギー＆ケミカル

単位：億円	2025年度上期実績	2026年度上期実績	増減
売上高	1,411	**1,888**	＋476
天然ガス系化学品	1,045	**1,490**	＋444
芳香族化学品	368	**401**	＋33
調整	▲2	**▲3**	▲1
営業利益	43	**157**	＋113
天然ガス系化学品	30	**132**	＋101
芳香族化学品	12	**24**	＋11
調整	0	**0**	▲0
経常利益	62	**204**	＋142
天然ガス系化学品	40	**155**	＋115
芳香族化学品	22	**49**	＋27
調整	0	**▲0**	▲0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

			2026年度上期実績（2025年度上期実績比）
天然ガス系化学品	メタノール	↗	中東情勢緊迫化に伴う市況上昇に加え、在庫受払差等の影響により増収増益（前期309ﾄﾞﾙ/MT→今期491ﾄﾞﾙ/MT）
	メタノール・アンモニア系化学品	↗	原材料価格は上昇したものの、販売価格への転嫁が進んだことや、MMA系製品の販売数量増加などにより増収増益
	エネルギー資源・環境事業	→	原油の販売価格は上昇も、電力事業における電力販売量の減少により前年同期並み
芳香族化学品	MXDA*、芳香族アルデヒド、ポリマー材料 * 誘導品含む	↗	原燃料価格の上昇や顧客の在庫調整などによる芳香族アルデヒドの販売数量減少があるも、MXDAの欧州の需要回復やMXナイロンのPETボトル向け販売数量増加により増収増益
	キシレン分離/誘導品	↗	原燃料価格の上昇に合わせて販売価格が上昇、在庫受払差の影響もあり増収増益

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

14ページでは、GECの上期実績について、前年同期比で主要事業別の業績動向を示しております。こちらも後ほど、ご参照願います。

グリーン・エネルギー＆ケミカル

単位：億円	2026年度 上期実績	2026年度 下期予想	増減
売上高	1,888	1,956	＋67
天然ガス系化学品	1,490	1,529	＋39
芳香族化学品	401	429	＋27
調整	▲3	▲2	＋1
営業利益	157	13	▲144
天然ガス系化学品	132	17	▲115
芳香族化学品	24	▲4	▲28
調整	0	0	＋0
経常利益	204	84	▲120
天然ガス系化学品	155	88	▲66
芳香族化学品	49	▲4	▲53
調整	▲0	0	＋0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

		2026年度下期予想（2026年度上期実績比）	
天然ガス系化学品	メタノール	↘	下期のメタノール市況は概ね上期並みを想定（上期実績491ドル→下期予想500ドル） 在庫受払差等の剥落等により減益を見込む
	メタノール・アンモニア系化学品	↘	在庫受払差等の剥落や下期に予定されているMMA系の定修等により減益を予想
	エネルギー資源・環境事業	↘	発電用LNG販売による増収はあるも、ヨウ素事業の固定費増加等により減益を見込む
芳香族化学品	MXDA*、芳香族アルデヒド、ポリマー材料 ＊誘導品含む	↘	芳香族アルデヒドの販売数量回復等を見込むものの、定修による固定費増加により減益を予想
	キシレン分離/誘導品	↘	定修による固定費増加により減益を見込む

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続きまして15ページでは、下期予想について示しております。

メタノールは、下期の市況は概ね上期並み（上期実績491ドル→下期予想500ドル）を想定しておりますが、上期に生じた在庫受払差の剥落等により減益を見込んでおります。

メタノール・アンモニア系化学品は、在庫受払差等の剥落や、下期に予定されているMMA系の定修等により減益を予想しております。

エネルギー資源・環境事業は、発電用LNG販売による増収が見込まれるものの、ヨウ素事業の固定費増加等により減益となる見通しです。

MXDAや芳香族アルデヒドは、芳香族アルデヒドの販売数量回復を見込むものの、定修での固定費増加により減益を予想しております。

機能化学品

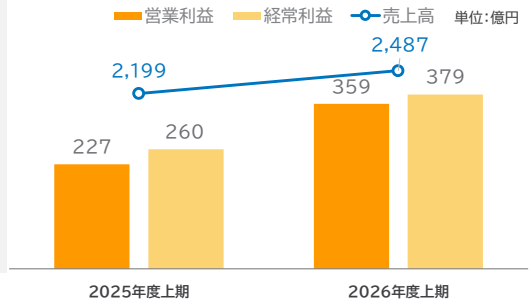
2026年度上期実績

売上高:

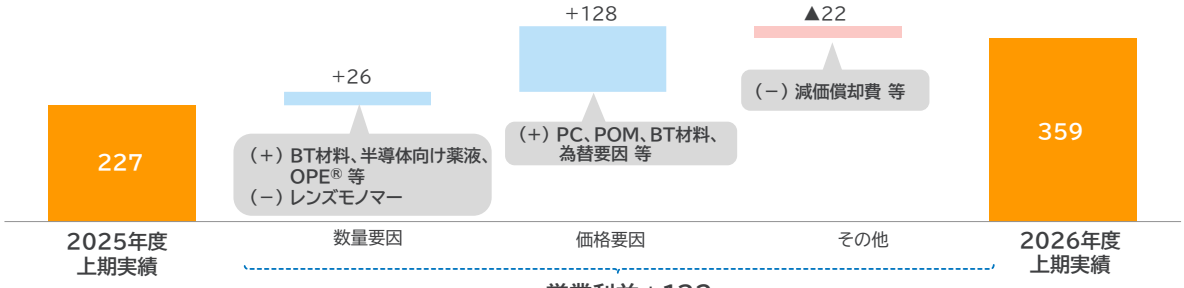
電子材料や半導体向け薬液の販売数量の増加に加え、エンジニアリングプラスチックスにおける原材料コスト上昇の販売価格転嫁への取組み、円安等により増収

営業利益:

上記に加え、エンジニアリングプラスチックスにおける在庫受払差等の影響での損益改善、前期計上した減損損失による償却費減少等もあり、増益



【営業利益差異要因】



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて16ページ、機能化学品事業についてご説明します。

上期実績の売上高は、電子材料や半導体向け薬液の販売数量の増加に加え、エンジニアリングプラスチックスにおけるコスト上昇の価格転嫁、円安等により増収となりました。

営業利益は、売上高の増加に加え、在庫受払差による損益改善、前期計上した減損損失による償却費減少等もあり、増益となりました。

下段には、前年同期比での営業利益差異要因を、滝グラフで示しております。

後ほど、ご参照願います。

機能化学品

単位：億円	2025年度上期実績	2026年度上期実績	増減
売上高	2,199	**2,487**	+ 288
機能化学品	1,740	**1,926**	+ 186
特殊機能材	459	**560**	+ 101
調整	▲ 0	**▲ 0**	+ 0
営業利益	227	**359**	+ 131
機能化学品	127	**208**	+ 80
特殊機能材	99	**150**	+ 51
調整	0	**▲ 0**	▲ 0
経常利益	260	**379**	+ 118
機能化学品	147	**224**	+ 76
特殊機能材	112	**155**	+ 42
調整	0	**▲ 0**	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

		2026年度上期実績（2025年度上期実績比）	
機能化学品	無機化学品	↗	半導体向け薬液の市場拡大に伴う販売数量増加に加え、前期末に計上した減損損失による償却費減少等により増収増益
	エンジニアリングプラスチックス	↗	原材料価格は上昇したものの、販売価格の転嫁や在庫受払差等の影響により、増収増益
	光学材料	↘	光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォン用カメラレンズ向けの販売は堅調に推移したものの、眼鏡向けレンズモノマーの生産トラブルの影響などにより減収減益
特殊機能材	電子材料	↗	半導体パッケージ用BT材料において、市場拡大に伴う販売数量の増加や価格改定等による販売単価の上昇に加え、AIサーバー向け基板材料OPE®も販売数量が増加し、増収増益
	生活衛生ソリューションズ	↗	脱酸素剤において輸出数量増加等により増収増益

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

17ページでは、機能化学品の上期実績について、前年同期比で主要事業別の業績動向を示しております。

こちらも後ほど、ご参照願います。

機能化学品

単位：億円	2026年度 上期実績	2026年度 下期予想	増減
売上高	2,487	**2,615**	+ 128
機能化学品	1,926	**2,041**	+ 114
特殊機能材	560	**573**	+ 13
調整	▲ 0	**▲ 0**	▲ 0
営業利益	359	**323**	▲ 35
機能化学品	208	**171**	▲ 36
特殊機能材	150	**152**	+ 1
調整	▲ 0	**0**	+ 0
経常利益	379	**321**	▲ 57
機能化学品	224	**163**	▲ 60
特殊機能材	155	**157**	+ 2
調整	▲ 0	**0**	+ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

		2026年度下期予想（2026年度上期実績比）	
機能化学品	無機化学品	→	北米での新プラント稼働に伴う固定費の増加等はあるものの、半導体向け薬液の販売は伸長し、上期並みの損益を見込む
	エンジニアリングプラスチックス	↘	国内拠点における固定費負担増、タイ拠点での定修などにより減益を見込む
	光学材料	→	光学樹脂ポリマーは堅調な販売が継続、レンズモノマーは新プラント稼働開始に伴う固定費増加があるものの、既存プラントのトラブル解消影響も含め販売数量が増加するため、上期並みの損益を見込む
特殊機能材	電子材料	→	BT材料はスマートフォン向け等が減速も価格改定による販売単価上昇や新規用途での拡販を見込む。OPE®もAIサーバー向けの販売数量増加を見込み、両製品とも増益の見通し
	生活衛生ソリューションズ	→	脱酸素剤の販売は引き続き堅調で上期並みの損益を見込む

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

18ページは、下期予想について示しております。

無機化学品は、北米での新プラント稼働に伴う固定費の増加等はあるものの、半導体向け薬液の販売は伸長し、上期並みの損益を見込んでおります。

エンジニアリングプラスチックスは、国内拠点における固定費負担増、タイ拠点での定修などにより減益を予想します。

光学材料につきましては、光学樹脂ポリマーは、堅調な販売を予想しております。レンズモノマーは、新プラント稼働開始に伴う固定費増加があるものの、既存プラントでのトラブル解消もあり、上期並みの損益を見込んでおります。

電子材料につきましては、BT材料は、スマートフォン向けの需要が減速するものの、価格改定による販売単価上昇や、新規用途での拡販を見込んでおります。

OPE®につきましても、AIサーバー向けの販売数量増加を見込み、両製品とも増益を見込んでおります。

1 | 2026年度 上期 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス 次期中計に向けて

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

最後に次期中計について説明いたします。

現中期経営計画(Grow UP 2026)の進捗状況

- 営業利益・EBITDAを除き、各計画値は概ね達成見込み。一方、成長投資による収益貢献が十分実現出来ていない点が課題
- 重点管理事業を中心とした構造改革や非事業用資産の売却を通じ、事業ポートフォリオの強靭化および資本効率改善を推進
- 2026年度は中東情勢緊迫化による市況上昇等が業績を下支えも、市況による業績ボラティリティの高さを認識

	Grow UP 2026		2026年度 計画との差異 (A)-(B)
	2023年度 実績	2026年度 11月業績予想 (A)	2026年度 計画 (B)	
売上高	8,134億円	9,000億円	8,500億円	+500億円
営業利益	473億円	810億円	850億円	▲40億円
営業利益率	5.8%	9.0%	10%以上	▲1.0pp
経常利益	460億円	960億円	950億円	+10億円
EBITDA	849億円	1,405億円	1,500億円	▲94億円
ROE	6.1%	9.8%	9%以上	+0.8pp
ROIC	3.3%	8.2%	8%以上	+0.2pp

主な取り組み・現状認識

- ✓ U&P事業を中心に積極投資を推進も、EL薬品を中心に、大型投資の収益貢献に遅れ
- ✓ 電子材料は過去最高益を更新、光学材料も伸長
- ✓ 採算性が課題となっていたPC系事業の生産拠点集約、OX系チェーンからの撤退を決定。事業環境が悪化した欧州MXDAプロジェクトの中止を決断。これらに伴い減損損失も計上
- ✓ MGC戦略研究領域(モビリティ、ICT、医・食)を中心に、研究開発を強化

次期中期経営計画では、
経営資源の重点配分と大型投資の成果刈り取りを進め、
営業利益率や資本効率(ROIC・ROE)の更なる改善を目指す

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

20ページでは、現中期経営計画Grow UP 2026の進捗をお示ししています。

当初の計画値と先程ご説明した業績予想を比較しますと、営業利益・EBITDAを除き、各計画値は概ね達成する見込みです。

現中計期間中、U&P事業への積極投資を進め、電子材料は過去最高益の見通し、光学材料も伸長しています。

一方、EL薬品を中心に成長投資の収益貢献が十分実現出来ていない点が課題であると認識しています。

また、中東情勢の緊迫化による市況上昇が業績を下支えしていますが、

市況による業績変動の大きさは課題と受け止めています。

こうした課題に対し、PC系事業の生産拠点集約とオルソキシレン(OX)チェーンからの撤退、欧州MXDAプロジェクトの中止を決断しました。

次期中計では、重点配分と大型投資の成果刈り取りを進め、

営業利益率とROIC・ROEの更なる改善を目指します。

次期中期経営計画のコンセプト

– 大きな変革の時代に、当社グループ自らが変革(Transform)する姿勢を示すため、
次期中計タイトルを **Transform × UP* 2030** に設定

*「U&P」:特色・存在感のある製品(高い参入障壁、代替困難性、強い顧客基盤・高シェア等) ⇒ 当社が競争優位性を発揮し、顧客が認める付加価値を価格に反映できる製品

- ✓ 2040年に想定される事業環境からバックキャストで次期中計を策定
- ✓ 当社のビジョンに込めた「特色と存在感:Uniqueness & Presence(U&P)」を次期中計でも引き続き重視
- ✓ 中計期間は2027年度~2030年度の4年間(事業環境の変化に機動的に対応するため、中間地点の2028年度末に進捗を検証し、必要に応じて計画を見直し)

2040年に想定される事業環境の変化

当社グループを取り巻く環境は大きな変革期を迎えると想定

ブロック経済化の定着と供給網の分断	新興企業の台頭による競争環境の変化	カーボンニュートラルと経済的価値の両立への要請	AI・デジタル化による生産性の劇的な向上
			

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

続いて21ページです。
次期中計は、2040年の事業環境からバックキャストして策定しています。

想定する変化は、ブロック経済化と供給網の分断、新興企業の台頭による競争環境の変化、カーボンニュートラルと経済的価値の両立、AI・デジタル化による生産性の向上の4点です。

こうした変革の時代に、自らも変革する姿勢を示すため、
タイトルを「Transform × UP 2030」とし、「特色と存在感:U&P」を引き続き重視します。

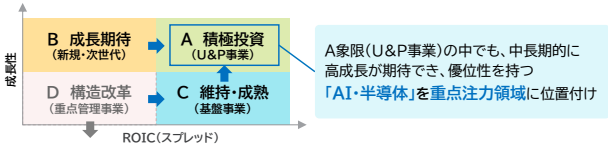
期間は2027年度からの4年間で、2028年度末に進捗を検証し、
必要に応じて計画を見直します。

事業ポートフォリオ変革の断行①

- 「成長性×ROIC」の4象限で事業を区分し、「勝てる」領域へ経営資源(ヒト、モノ、カネ)を重点配分
- 社会や顧客の潜在的なニーズを起点に研究開発を進める、マーケットアウト型の「真の研究開発型企業」へ転換

施策1「Uniqueness & Presence」の追求

- ✓ 事業区分は「成長性×ROIC」の定量評価に基づき判定
- ✓ 「率」の重視と厳格な4象限管理、データドリブン経営で、ROE・ROICを改善
- ✓ オーガニック投資だけでなく、M&A等のインオーガニック投資も案件厳選の上で実行し、収益規模を拡大
- ✓ 重点管理事業(PC系、キシレン分離/誘導品)はさらなる構造改革を実行



A象限(U&P事業)の中でも、中長期的に高成長が期待でき、優位性を持つ「AI・半導体」を重点注力領域に位置付け

施策2「真の研究開発型企業」への転換

マーケットアウト型の「真の研究開発型企業」

- **自社技術にこだわるだけでなく、社会や顧客の潜在的なニーズを起点に研究開発を行う**
- **顧客と共に新しい市場を創る姿勢を持つ**
- **自社で守るべきコア技術の見極めを行い“ワンオブゼム”に陥らない独自性と存在感を追求する**

- ✓ 非連続的イノベーション:ありたい姿からバックキャストし、既存の延長線上にない解決策を顧客に提案
- ✓ DX・AI活用:業務効率化で生んだ時間を、顧客との対話に振り向ける

施策3「攻めのガバナンス」の強化

- ✓ コーポレートガバナンス・コード改訂も踏まえ、「守り」に加えて「攻め」の機能を強化し、企業価値を向上
- ✓ 投資規律の強化・投資実行力の向上により、大型投資の収益貢献を確実にする
- ✓ 迅速・果断な意思決定で施策1・2の実効性を高め、事業ポートフォリオ変革を断行

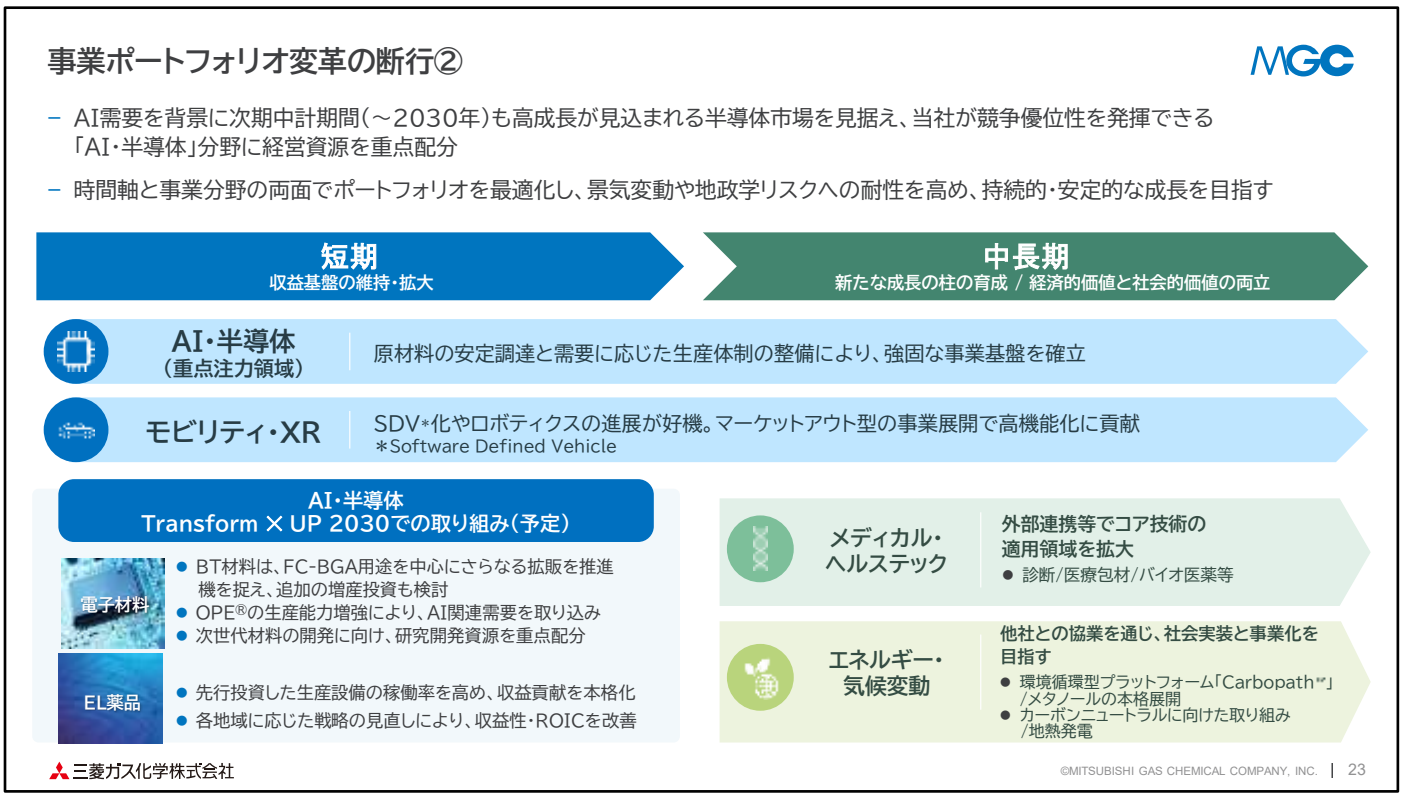
©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

22ページは「事業ポートフォリオ変革の断行」です。施策は3点あります。

施策1は「Uniqueness & Presence」の追求です。
「成長性」と「ROIC」で事業を4象限に区分して厳格に管理し、ROEとROICを改善します。
右上のA象限の中でも、高成長が期待でき当社に優位性のある「AI・半導体」を重点注力領域とします。
一方、重点管理事業のPC系、キシレン分離・誘導品は、さらなる構造改革を実行します。

施策2は「真の研究開発型企業」への転換です。
社会や顧客の潜在ニーズを起点とするマーケットアウト型へ転換し、
「ワンオブゼム」に陥らない独自性を追求します。

施策3は「攻めのガバナンス」の強化です。投資規律と実行力を高め、
大型投資の収益貢献を確実にします。



23ページは、事業の時間軸に沿った取り組みです。

短期の成長エンジンは「AI・半導体」です。
BT材料はFC-BGA用途を中心に拡販し、追加の増産投資も検討します。
本日リリースを行ったBT材料タイ拠点での生産能力増強もその取り組みの一つとなります。

OPEにつきましても、能力増強でAI関連需要を取り込む他、EL薬品は稼働率向上で収益貢献を本格化させます。

モビリティ・XRでは、自動車のSDV化、つまりソフトウェアで価値が決まる車への進化や、ロボティクスが進んでいます。
エンジニアリングプラスチックスに加え、ICT関連の製品にも事業機会が広がると見ており、マーケットアウト型の事業展開で高機能化に貢献します。

中期ではメディカル・ヘルステックを、第三の柱に育てます。
外部連携も活用してコア技術の適用領域を広げ、診断、医療包材、バイオ医薬などで事業化を目指します。
長期のエネルギー・気候変動では、環境循環型メタノール「Carbopath」の本格展開を、他社との協業も含めて進めてまいります。

このように、時間軸と事業分野の両面でポートフォリオを最適化し、
景気変動や地政学リスクへの耐性を高め、持続的・安定的な成長を実現します。
次期中計の詳細につきましては、来年5月に発表を予定しております。

Appendix

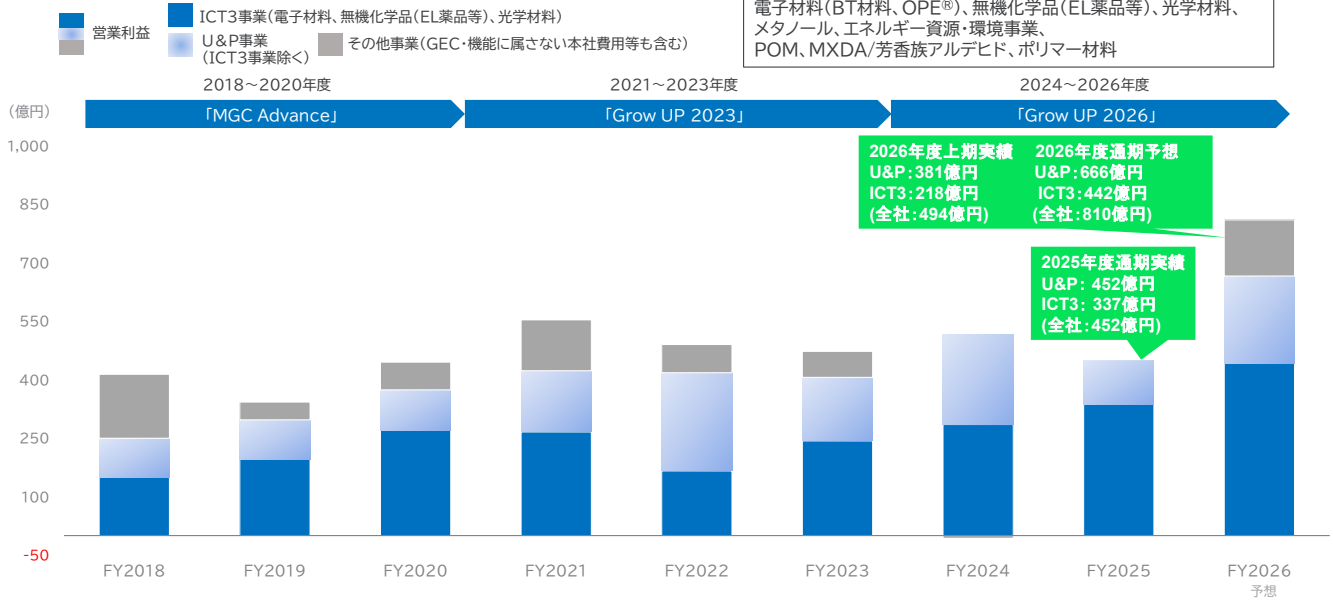
©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

ICT3事業・U&P事業(Uniqueness & Presence)の営業利益推移

– 成長ドライバーであるICT3事業を中心に、現中計期間に再拡大

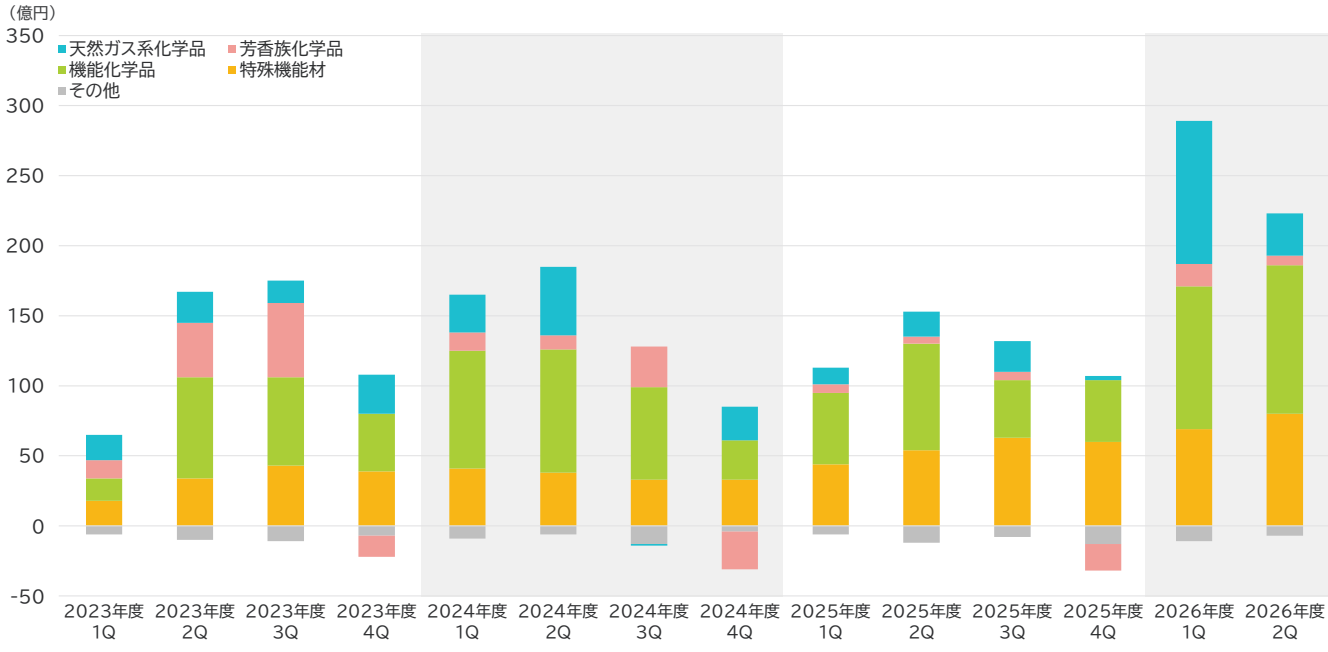
U&P事業:中計「GrowUP2026」において経営資源を優先的に配分すべきと評価した以下の事業

電子材料(BT材料、OPE®)、無機化学品(EL薬品等)、光学材料、メタノール、エネルギー資源・環境事業、POM、MXDA/芳香族アルデヒド、ポリマー材料



©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

主要製品群別 営業利益推移



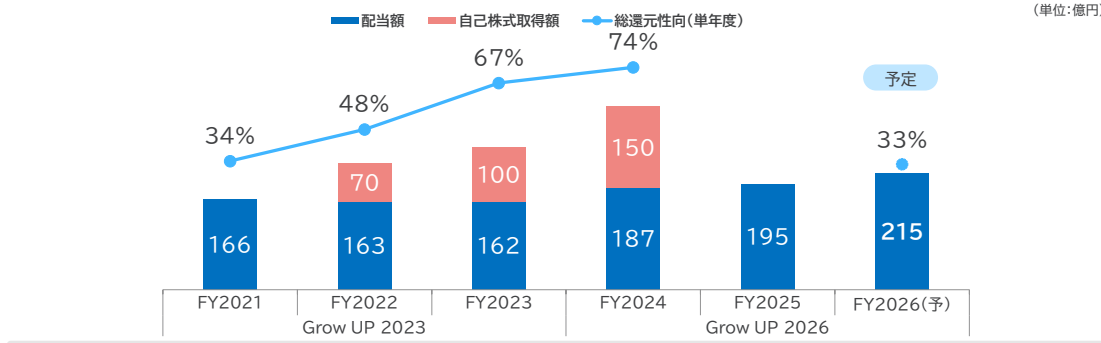
※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

資本政策/株主還元

- 現中計「Grow UP 2026」での還元方針は、**累進配当方針、総還元性向 50%目安、DOE(自己資本配当率)目標値 3%**
- 中計最終年度の2026年度も、上記方針に基づき**年間10円の増配を予定**。今後も積極的に株主還元に取り組んでいく

2026年度の年間配当金は110円を予定(普通配当ベースで年間10円の増配)



	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026(予)
当期純利益	482	490	388	455	▲403	650
年間配当金(円/株)	80*	80	80	95	100	110

＊ 記念配当10円を含む

累進配当方針

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

単位:億円	2025年度(実績)			2026年度(前回予想)*			2026年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,616	3,765	7,382	4,400	4,200	8,600	4,368	4,631	9,000
GEC	1,411	1,458	2,869	1,918	1,681	3,599	1,888	1,956	3,844
機能化学品	2,199	2,284	4,483	2,474	2,498	4,972	2,487	2,615	5,102
全社/調整	6	23	29	7	19	27	▲6	59	53
営業利益	251	201	452	410	300	710	494	315	810
GEC	43	12	56	128	53	181	157	13	170
機能化学品	227	210	438	307	270	578	359	323	682
全社/調整	▲19	▲22	▲41	▲26	▲23	▲49	▲21	▲21	▲43
経常利益	314	204	519	460	330	790	568	391	960
GEC	62	▲23	38	147	81	228	204	84	289
機能化学品	260	230	491	326	270	597	379	321	701
全社/調整	▲7	▲2	▲10	▲14	▲21	▲36	▲15	▲15	▲30

＊2026年8月7日公表

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

セグメント別 2025年度及び2026年度 四半期別推移

単位:億円	2025年度(実績)				2026年度(実績)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,779	1,837	1,877	1,887	2,237	2,131
GEC	682	728	755	702	998	890
機能化学品	1,089	1,110	1,120	1,163	1,228	1,259
全社/調整	8	▲ 1	2	21	10	▲ 17
営業利益	109	141	126	74	278	216
GEC	19	23	29	▲ 16	119	38
機能化学品	96	130	105	104	171	187
全社/調整	▲ 6	▲ 12	▲ 8	▲ 13	▲ 12	▲ 9
経常利益	138	176	166	37	291	276
GEC	39	23	31	▲ 55	116	88
機能化学品	99	160	126	104	179	200
全社/調整	▲ 0	▲ 7	9	▲ 11	▲ 3	▲ 11

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

単位:億円	2025年度(実績)			2026年度(前回予想)*			2026年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	3,616	3,765	7,382	4,400	4,200	8,600	4,368	4,631	9,000
天然ガス系化学品	1,045	1,089	2,135	1,508	1,268	2,776	1,490	1,529	3,019
芳香族化学品	368	370	738	412	415	828	401	429	830
機能化学品	1,740	1,768	3,508	1,908	1,922	3,830	1,926	2,041	3,968
特殊機能材	459	516	975	565	576	1,141	560	573	1,134
全社/調整	3	20	24	4	17	22	▲ 10	56	46
営業利益	251	201	452	410	300	710	494	315	810
天然ガス系化学品	30	26	57	105	47	153	132	17	149
芳香族化学品	12	▲ 13	▲ 0	22	5	28	24	▲ 4	20
機能化学品	127	86	213	166	124	291	208	171	380
特殊機能材	99	124	224	140	146	287	150	152	302
全社/調整	▲ 19	▲ 21	▲ 41	▲ 26	▲ 23	▲ 49	▲ 21	▲ 21	▲ 42
経常利益	314	204	519	460	330	790	568	391	960
天然ガス系化学品	40	▲ 23	16	100	78	178	155	88	243
芳香族化学品	22	▲ 0	22	47	2	50	49	▲ 4	45
機能化学品	147	93	241	181	120	302	224	163	388
特殊機能材	112	136	249	144	150	295	155	157	312
全社/調整	▲ 7	▲ 2	▲ 10	▲ 14	▲ 21	▲ 36	▲ 15	▲ 15	▲ 30

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

＊2026年8月7日公表

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

主要製品群別 2025年度及び2026年度 四半期別推移

単位:億円	2025年度(実績)				2026年度(実績)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,779	1,837	1,877	1,887	**2,237**	**2,131**
天然ガス系化学品	498	546	567	522	**792**	**697**
芳香族化学品	185	183	188	182	**206**	**194**
機能化学品	869	870	860	907	**956**	**970**
特殊機能材	219	239	260	255	**272**	**288**
全社/調整	6	▲ 3	0	19	**9**	**▲ 19**
営業利益	109	141	126	74	**278**	**216**
天然ガス系化学品	12	18	22	3	**102**	**30**
芳香族化学品	6	5	6	▲ 19	**16**	**7**
機能化学品	51	76	41	44	**102**	**106**
特殊機能材	44	54	63	60	**69**	**80**
全社/調整	▲ 6	▲ 12	▲ 8	▲ 13	**▲ 12**	**▲ 8**
経常利益	138	176	166	37	**291**	**276**
天然ガス系化学品	30	10	13	▲ 37	**89**	**65**
芳香族化学品	8	13	17	▲ 18	**26**	**22**
機能化学品	47	100	48	45	**105**	**119**
特殊機能材	52	60	77	59	**73**	**81**
全社/調整	▲ 0	▲ 7	9	▲ 11	**▲ 3**	**▲ 11**

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

2026年度 上期 貸借対照表

単位:億円	2026年3月末	2026年9月末	増 減
流動資産	4,504	4,767	+ 262
現預金	689	619	▲ 70
売掛債権	1,495	1,625	+ 129
棚卸資産	2,069	2,289	+ 219
その他	249	233	▲ 16
固定資産	6,625	6,830	+ 204
有形固定資産	3,343	3,442	+ 99
無形固定資産	235	223	▲ 12
投資その他の資産	3,046	3,163	+ 117
資産合計	11,130	11,597	+ 467

単位:億円	2026年3月末	2026年9月末	増 減
負債	4,334	4,454	+ 119
買掛債務	919	1,074	+ 155
有利子負債	2,292	2,258	▲ 33
その他	1,122	1,120	▲ 1
純資産	6,795	7,143	+ 347
株主資本	5,412	5,694	+ 281
その他包括利益累計額	1,051	1,089	+ 37
非支配株主持分	331	359	+ 27
負債・純資産合計	11,130	11,597	+ 467

自己資本比率　58.5%（2026年9月末時点）

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

2026年度 上期 キャッシュフロー計算書

単位:億円	2025年度 上期	2026年度 上期	増 減
営業キャッシュフロー	298	336	+38
投資キャッシュフロー	▲399	▲276	+123
フリーキャッシュフロー(差引)	▲100	60	+161
財務キャッシュフロー	32	▲199	▲231
現金及び現金同等物に係る換算差額等	▲3	21	+24
現金及び現金同等物の増減額(合計)	▲71	▲116	▲45
現金及び現金同等物の期首残高	569	590	+21
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	17	+17
現金及び現金同等物の四半期末残高	498	491	▲6

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

各種指標（1）

単位：億円

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度（予）
設備投資額 ［上期］	309 ［139］	392 ［186］	423 ［224］	402 ［158］	547 ［220］	646 ［312］	817 ［380］	887 ［397］	719 ［415］	610 ［311］
減価償却費 ［上期］	270 ［131］	274 ［135］	295 ［144］	306 ［151］	319 ［158］	335 ［161］	363 ［183］	346 ［168］	382 ［185］	400 ［190］
研究開発費 ［上期］	189 ［95］	186 ［91］	196 ［94］	199 ［98］	210 ［101］	235 ［111］	256 ［126］	261 ［127］	266 ［124］	290 ［130］
年度末人員（人）	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,146	8,319	8,448
EBITDA*1	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	973	928	1,405
U&P事業 営業利益	314	250	297	374	423	418	406	515	452	666
ROE（自己資本当期利益率）（%）	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9	-	9.8
ROIC（投下資本利益率）*2（%）	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4	3.2	8.2
売上高営業利益率（%）	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.6	6.1	9.0
一株当たり当期純利益（円/株）	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	228.93	▲207.04	333.32
一株当たり配当金（円/株） ［うち中間配当］	59.00 ［24.00］	70.00 ［35.00］	70.00 ［35.00］	70.00 ［35.00］	80.00*3 ［45.00*3］	80.00 ［40.00］	80.00 ［40.00］	95.00 ［45.00］	100.00 ［50.00］	110.00 ［55.00］
総還元性向 （%）	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	74.1	-	33.0

*1 EBITDA=経常利益＋減価償却費＋支払利息　*2 ROIC=（営業利益－法人税等＋持分法損益）/投下資本　*3 記念配当10円を含む

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

各種指標（2） セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）

単位：億円		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
設備投資額*	天然ガス系化学品	90	60	57	72	GEC	197	192	320	370	349	246
	芳香族化学品	105	113	146	150							
	機能化学品	81	110	144	146	機能化学品	186	326	286	419	500	425
	特殊機能材	66	19	23	26							
	その他	5	6	21	27	その他	18	29	39	27	37	47
	合計	**350**	**309**	**392**	**423**	**合計**	**402**	**547**	**646**	**817**	**887**	**719**
減価償却費	天然ガス系化学品	50	51	55	63	GEC	164	171	179	173	137	132
	芳香族化学品	85	85	87	95							
	機能化学品	86	91	87	87	機能化学品	130	130	137	168	185	225
	特殊機能材	30	35	36	38							
	その他	3	5	8	10	その他	11	17	18	20	24	25
	合計	**256**	**270**	**274**	**295**	**合計**	**306**	**319**	**335**	**363**	**346**	**382**

＊固定資産計上ベース

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

各種指標（3）

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期予想
為替(JPY/USD)	134	137	141	148	153	152	146	156	159	155
為替(JPY/EUR)	139	143	153	160	166	162	168	182	184	175
原油価格(Dubai) (USD/bbl.)	102	83	82	82	82	75	69	75	95	105
メタノール（USD/MT） アジアスポット平均価格	375	351	297	324	333	335	309	324	491	500
原料キシレン(USD/MT)	1,105	925	960	910	885	750	695	770	1,000	1,110
ビスフェノールA (USD/MT)*	1,450 ～2,200	1,250 ～1,700	1,150 ～1,400	1,250 ～1,350	1,250 ～1,350	1,200 ～1,350	1,100 ～1,250	1,050 ～1,700	1,250 ～1,750	1,400 ～1,600
ポリカーボネート (USD/MT)*	1,950 ～2,900	1,800 ～2,200	1,650 ～1,900	1,700 ～1,900	1,750 ～1,900	1,600 ～1,800	1,500 ～1,650	1,500 ～2,350	1,800 ～2,450	1,950 ～2,150

＊ 期間中の最小値及び最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD)　：1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益4億円/年の減益(増益)
為替(EUR)　：1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)
原油(Dubai)：中東情勢緊迫を受け、改めて精査中（※2025年度業績予想における感応度は、＄1/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず）
メタノール　：メタノール市況＄1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益長期推移

単位:億円		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026(予)
全社	売上高	6,489	6,133	5,957	7,056	7,812	8,134	7,735	7,382	9,000
	営業利益	413	342	445	553	490	473	508	452	810
	経常利益	691	311	502	741	697	460	603	519	960
天然ガス系化学品	売上高	1,883	1,637	1,582	2,262	2,471	2,155	2,329	2,135	3,019
	営業利益	33	1	9	97	88	85	100	57	149
	経常利益	226	▲57	26	140	201	0	155	16	243
芳香族化学品	売上高	2,117	2,011	1,834	2,028	2,357	2,006	912	738	830
	営業利益	146	111	117	160	98	91	26	▲0	20
	経常利益	139	104	116	160	103	101	49	22	45
機能化学品	売上高	2,057	2,020	2,074	2,141	2,489	3,452	3,706	3,508	3,968
	営業利益	212	199	228	174	241	194	266	213	380
	経常利益	282	223	255	276	281	234	279	241	388
特殊機能材	売上高	519	548	623	715	602	640	735	975	1,134
	営業利益	39	56	119	161	84	136	146	224	302
	経常利益	44	58	119	178	106	151	159	249	312

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

世界で戦える独自性のある製品(U&P事業)

- 「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、社会的価値と経済的価値を両立して持続的に成長できる事業(差異化事業)を「Uniqueness & Presence事業」と定義
- Uniqueness & Presence(U&P)事業は当社全体の利益成長を牽引
- とりわけ、半導体関連製品(BT材料、超純過酸化水素)やスマホカメラ向けレンズ材料(光学樹脂ポリマー)といったICT3事業が成長ドライバー

Uniqueness & Presence事業

成長ドライバー
ICT3事業
(半導体・スマホ向け)



BT材料(半導体パッケージ基板材料)
世界シェア 1位



超純過酸化水素(半導体洗浄液)
世界シェア 1位



光学樹脂ポリマー
世界シェア 1位*1



ポリアセタール(POM)
世界シェア 3位



メタノール
生産能力 世界3位*2



メタキシレンジアミン(MXDA)
世界シェア 1位



MXナイロン
世界シェア 1位



芳香族アルデヒド
世界シェア 1位

三菱ガス化学株式会社

*1 高屈折樹脂として
*2 当社技術を用いた関係会社の総計(2025年度)

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

各報告セグメントの主要製品

報告セグメント	主要製品群	主要製品
グリーン・エネルギー＆ケミカル	天然ガス系化学品	・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、 MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	・MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料(MXナイロン等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸 (PIA)等)
機能化学品	機能化学品	・無機化学品(EL薬品(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチックス(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折率レンズモノマー等)
	特殊機能材	・電子材料(半導体パッケージ用BT材料、OPE®等) ・生活衛生ソリューションズ製品(脱酸素剤:エージレス®、環境衛生薬品:ダイヤパワー等)

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

- 2026年度第3四半期 決算発表
  2027年2月10日(水) 15:30

- 2026年度第3四半期 アナリスト・機関投資家向け 決算説明会
  2027年2月10日(水) 時間未定

※上記予定は都合により、予告なく変更となる可能性があります。

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部　IRグループ

TEL　03-3283-5041
URL　https://www.mgc.co.jp/

IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

